

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

JOSAI INTERNATIONAL CENTER for the Promotion of Art and Science (JICPAS)

学校法人 城西大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26

☎ 03-6238-1300

http://www.josai.jp/

Newsletter

Josai University Educational Corporation

3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎ 03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.21

(2015.9.30 発行)



マハティール氏に名誉博士号を授与いたしました



講演するマハティール氏



学生からマスコットを贈られたマハティール夫妻

2015年5月21日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は創立50周年を記念して元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハンマド（Mahatir bin Mohamad）氏を招いた講演会「平和への知恵——未来のリーダー・国際市民へのメッセージ（Enhancing Knowledge for Peace: A message to Future Leaders & Global Citizens）」を、東京紀尾

井町キャンパスで開催しました。また、本学はこの日、講演会を記念してマハティール氏に名誉博士号を授与するとともに、法人本部内に「アセアン研究センター（JOSAI Center for ASEAN Studies）」を設立しました。本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響のある方、優れた研究業績を残された方などを招いてグローバル人材

水田三喜男記念
「グローバル・
レクチャー」
シリーズ

学校法人城西大学創立50周年記念 水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ 「マハティール マレーシア元首相 講演会」を開催

日時…2015年5月21日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開することになり、マハティール氏の講演会がそのスタートになりました。

マハティール氏はマレーシア第4代首相。開業医から政治家に転じ、1981年から2003年までの22年間、マレーシアでは最長の首相を務めました。アジアを代表する知日のリーダーで、欧米諸国ではなく日本の経済成長を見習おうという「ルックイースト（東方）政策」を唱え、長期に及ぶ強力なリーダーシップにより、マレーシアの国力を飛躍的に増大させました。

今回の講演会には水田理事長を団長とする学校法人城西大学の一行が今年1月、マレーシアを訪問した際にマハティール氏の自宅を表敬訪問。「グローバル・レクチャー」シリーズへの登壇を依頼し、快諾を得たことから実現しました。

マハティール氏ら一行は5月21日午前、城西大学や城西国際大学の教職員や学生・留学生が出迎える中、東京紀尾井町キャンパス3号棟と1号棟を訪れました。1号棟ホールで行われた講演会で、水田理事長は「アジアの平和と繁栄、共存をもたらした偉大な指導者のメッセージを聴くことができるのは大変名誉なこと」と挨拶。マハティール氏は講演で「マレーシアは五つの国と国境を接し領土問題を抱えているが、国際司法裁判所の判断に従って戦争を起こさず解決してきた」と述べたうえで、「日本は他国との争いに戦争という手段を使っているのではない。戦争は最大の犯罪という価値観を世界に広めなければならない」と訴えられました。

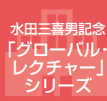
教職員や学生・留学生らで満席。両大学のサテライトでも学生らが、アジアを代表するリーダーの貴重な話に熱心に聞き入りました。講演会後はホテルに会場を移して午餐会が行われました。来賓の前日本経団連会長の米倉弘昌・住友化学相談役や乾杯の音頭を取っていた杉田亮毅・日本経済新聞社元会長、伊藤芳明・毎日新聞社専務取締役主筆の方々と交えて歓談の輪が広がりました。この日開所したアセアン研究センターは東京紀尾井町キャンパス2号棟に置かれ、杉林堅次副学長と元マレーシア観光大臣の・イエンイエン (Zs Yen Yen) 氏が所長に就任。今後、アセアン地域と日本における学術交流・共同研究を推進するとともに、広く国際関係を支える人材の育成に努めていきます。

学校法人城西大学創立50周年記念 水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

「エズラ・F・ヴォーゲル氏による講演会」を開催

日時…2015年6月13日

場所…城西大学坂戸キャンパス



2015年6月13日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は創立50周年を記念して米ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル (Ezra F. Vogel) 氏を招いた講演会「東アジア…これからの50年 (East Asia in the Next Fifty Years)」を、埼玉県坂戸市の城西大学坂戸キャンパスで開催しました。本学は講演会を記念して、ヴォーゲル氏に名誉博士号を授与しました。本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響のある方、優れた研究業績を残された方などを招いてグローバル人材の育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを

展開しています。ヴォーゲル氏は、5月21日の元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハンマド (Mahathir bin Mohamad) 氏に次いで2人目の登壇となりました。ヴォーゲル氏は、1958年にハーバード大学で博士号（社会学）を取得後、日本語と日本の家族関係の研究のために来日して2年間滞在しました。1972年に同大の東アジア研究所長に就任。日本でベストセラーとなった「ジャパン・アズ・ナンバーワン」を79年に発表しました。最近では10年以上を費やして執筆、2013年に発表した「現代中国の父 鄧小平」も話題となりました。比較文学研究者として滞

米生活が長かった水田理事長が、旧知のヴォーゲル氏に依頼して講演会が実現しました。

ヴォーゲル氏はこの日午前、城西大学や城西国際大学の教職員、学生・留学生らの出迎えを受けて、坂戸キャンパスに到着。水田美術館で収蔵の浮世絵を鑑賞した後、名誉博士号授与式と講演会に臨みました。

清光ホールで行われた名誉博士号授与式の後、水田理事長は挨拶で「日本研究だけでなく、この地域の平和と繁栄のために欠くことのできない学術、研究上の貢献をされた」とヴォーゲル氏の業績をたたえました。講演会でヴォーゲル氏はベルリンの壁崩壊や天安門事件のあった1989年の前後25年に分けて、日本と中国、アメリカの政治、経済、社会の変化をたどりました。そして今後の東アジアを展望するポイントとして「経済成長の継続」「環境問題の悪化」「国際交流の拡大」を挙げました。そのうえで、アメリカは「中国



ヴォーゲル氏に名誉博士号を贈る水田理事長

と環境問題で協力しなければならない」と指摘。経済成長を遂げ近隣諸国と摩擦を起こしている中国に対しては「低姿勢の外交政策を取るべきだ」と提言しました。また、日本については「もっと自然な英語を学ぶ必要がある」と述べて会場の笑いを誘った後、韓国を念頭に「隣の国と仲良くするためにももう少し我慢する必要がある。国の代表は思いやりと責任感」と結びました。ヴォーゲル氏は、「少子高齢化時代に若い世代は何をすべきか」などの学生の質問にも丁寧にお答えになりました。行田邦子参院議員や清水勇人さいたま市長など来賓の方々をはじめ、城西大学と城西国際大学の教職員や学生、研究者や近隣の方々などホールを埋めた約500人は、長い学究生活に裏打ちされたヴォーゲル氏の話に熱心に聞き入っていました。

講演会後はレセプションも行われ、ヴォーゲル氏を囲んで歓談の輪が広がりました。



講演するヴォーゲル氏

学校法人城西大学創立50周年記念「水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

「ノーベル物理学賞 小林誠先生 講演会」を開催

日時…2015年7月9日
場所…城西大学坂戸キャンパス

水田三喜男記念
「グローバル・
レクチャー」
シリーズ



「物質の構造」について説明する小林先生



対談する小林先生（左）と小野理事

2015年7月9日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）はノーベル物理学賞受賞者の小林誠・日本学術振興会学術システム研究センター所長を招いた講演会「反物質—素粒子から宇宙まで—」を、埼玉県坂戸市の坂戸キャンパスで開催しました。

本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響のある方、優れた研究業績を残された方などを招いて「グローバル人材の育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開しています。小林氏は、5月21日の元マレーシア首相

のマハティール・ビン・モハンマド (Mahathir bin Mohamad) 氏、6月13日の米ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル (Ezra F. Vogel) 氏に次いで3人目の登壇となりました。

小林氏は1944年、愛知県生まれ。素粒子理論を専門とする理論物理学者で、高エネルギー物理学研究所（現・高エネルギー加速器研究機構）教授や、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所所長などを歴任。素粒子の世界に存在する「破れ」と呼ばれる非対称性の理論化に取り組んだ功績で、2008年、益川敏英・名古屋大学素粒子宇宙起源研究

機構長や南部陽一郎・米国シカゴ大学名誉教授とともにノーベル物理学賞を受賞されました。

清光ホールで開かれた講演会に先立ち、水田理事長は「日本だけでなく、大きな業績が世界に認められた小林先生をお迎えするのは、誠に光栄なこと。今日のご講演は、私どもにとって非常に大切なものであり、未来に向けて素晴らしい示唆をいただける」と挨拶しました。

小林氏は「（反物質は）なかなか実用に結びつかないものではあるが、我々の存在そのものに關わる概念でもある」と前置きしたうえで、粒子から出来る物質の構造の説明を手始めに粒子に対する反粒子の概念とその発見の歴史に触れ、ノーベル賞の対象となった「C P対称性の破れ」を説明する理論を解説されました。また宇宙の始まりのビッグバンにも言及。高温・高密度の宇宙の始まりでは粒子と反粒子が共存しているが、冷えるにしたがって反粒子がなくなつて粒子だけの宇宙になるとして、「我々のモデルでは（宇宙の進化は）説明できない。

未知の破れのメカニズムが存在するのではないか」と今後の研究の方向性を示されました。

講演に引き続き、元文部科学省事務次官で本学大学院センター長の小野元之理事とのミニ対談も行われ、小林氏はノーベル賞授賞式でのエピソードも披露。日本の基礎研究の将来について「若い人の人口が減ってきている。その分、頑張らないと高い日本の研究水準は維持できないのではないかと。目の前の自分のやっていることを信じてやってほしい」と結ばれました。

質疑応答では、学生や院生の質問に小林氏は丁寧にお答えになり、藤縄善朗・鶴ヶ島市長はじめ、企業や地域の方々、県内高校の教員の方々、本学の教職員や学生ら約600人が興味深いお話しに聴き入りました。

経営学部棟メディアエリアに会場を移したレセプションでは、小林氏を囲んで歓談のひと時を過ごしました。小林氏は、学生たちが求めた記念撮影に笑顔で次々に応じていらっしゃいました。

学校法人城西大学創立50周年記念「水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ 「スタジオジブリ代表取締役プロデューサー

鈴木敏夫氏による講演会」を開催

日時…2015年7月10日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

水田三喜男記念
「グローバル・
レクチャー」
シリーズ

2015年7月10日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は創立50周年を記念し、スタジオジブリ代表取締役プロデューサー、鈴木敏夫氏を招いた講演会「日本から世界に広がるアニメ…芸術、技術、プロダクション」を、東京紀尾井町キャンパスで開催しました。

本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響のある方、優れた研究業績を残された方などを招いて「グローバル人材の育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開しています。鈴木氏は、5月21日の元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハンマド (Mahathir bin Mohamad) 氏、6月13日の米ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル (Ezra F. Vogel) 氏、7月9日のノーベル物理学賞受賞者の小林誠氏に次いで4人目の登壇となりました。



講演する鈴木氏（右）とインタビューの水田リビット教授（左）

鈴木氏は1948年、名古屋市生まれ。1972年慶応義塾大学文学部を卒業後、徳間書店に入社。「週刊アサヒ芸能」記者、「アニメージュ」編集長を経て、スタジオジブリに入社しました。高畑勲、宮崎駿作品をはじめとするジブリ作品をプロデューサーとして支えてきました。主な作品に「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」「崖の上のポニョ」「風立ちぬ」「かぐや姫の物語」などがあります。日活の佐藤直樹社長のお力添えで、今回の特別講演会が実現しました。

キャンパス1号棟ホールで行われた講演に先立ち、水田理事長は「留学生に聞くと、多くがアニメを通じて日本に興味を持ち、日本にきたとの答えが返ってきます。それぐらいアニメは日本だけでなく世界の若い人に影響を与え、文化を変えている。講演会が有意義で楽しい時間となるよう祈念しています」と



学生の質問に答える鈴木氏

挨拶しました。

本学の日本・アジア映像研究センター長である水田リビット教授・南カリフォルニア大学映像学部教授がインタビュアーとなった講演で、鈴木氏はプロデューサーの仕事について「何でも屋だが、一番は監督の味方となって信じてやっていく、その環境を整えること」と述べました。創作については「企画会議は一度もやったことがなくて、日常の会話や雑談の中から企画が生まれてくる」と語り、「風の谷のナウシカ」や「ハウルの動く城」「崖の上のポニョ」などの創作秘話を披露しました。

海外でのジブリアニメの反応の違いや好きな映画にも言及。「一区切りがついたので、影響を受けたウディ・アレンのビデオを集めている」と述べました。今後の活動については、長編アニメからの引退を表明した宮崎監督が、三鷹の森ジブリ美術館で上映する短編アニメ「毛虫のボロ」を3DCGで制作していることを明らかにし、「スピルバーグやルーカスが新しい映画の潮流をつくったが、新しい映画が期待されている。宮崎は3Dでそれをやろうとしている。やはりすごいと思う」と語りました。

質疑応答で、「先生の原動力は何ですか」という学生の質問に、鈴木氏は「一人では何もない。仲間を見つけて一緒にやる。仲間の存在はすごく大きい」と述べ、「僕と宮崎の場合、お互い負けず嫌いで、この人に負けるかという気持ちがある。それが原動力ですね」と付け加えて、会場の笑いを誘いました。

会場のホールと中継した大教室では、メディア学部を持つ城西国際大学と城西大学の教職員や学生、留学生が、ユーモアとエピソードに富んだ鈴木氏のお話に聴き入りしました。

周年記念事業

学校法人城西大学創立50周年記念コンサートを開催

日時…2015年4月20日
場所…城西大学坂戸キャンパス



学校法人城西大学は創立記念日の2015年4月20日、城西大学坂戸キャンパス（埼玉県坂戸市）の清光ホールで創立50周年を記念したコンサートを開きました。本学は国際交流活動の強化を目的に世界各国の大学と積極的な国際交流を進めており、近年は中欧諸国やアセアン諸国の大学との交流を強化しています。特にハンガリーとは、2007年のブダペスト商科大学（Budapest Business School）を皮切りに現在9校と学術交流協定を締結しており、多くの学生が行き来して交流を深めています。この日のコンサートは、ハンガリーに関係の深い演奏家の方々を招いて開かれました。

コンサートに先立ち、水田宗子理事長は

挨拶で「本日は創立50周年の最初の幕開けの行事です」と創立記念日に触れた後、「ハンガリーとの関係は私どもが国際教育を推進するうえで大きな力となっています。また、ハンガリーはリストをはじめ著名な音楽家を輩出。活躍中の演奏家の方々を招いた本日のコンサートをお楽しみください」と述べました。続いて来賓の駐日ハンガリー大使館のセルダヘイ・イシュトヴァーン（István Szerdahelyi）大使は「ハンガリーから要人が来る際は必ず城西大学を訪問して素晴らしい業績を直接見てもらっています。本日、ハンガリーの音楽を皆さんに聴いていただけることは本当にありがたいことです」と感謝の言葉を述べられました。



金子さん（奥）とセルダヘイ玲子さんによる連弾



挨拶するセルダヘイ大使

日本人の父とハンガリー人の母を持つ金子三勇士さんのピアノ演奏によるショパン



左から、金子さん、半田さん、コハーンさん

「ボロネーズ第6番変イ長調『英雄』」からコンサートはスタート。フダバスト生まれのコハーン・イシュトヴァーンさん（Zoltan Kohan）、クラリネット）、半田美和子さん（ソプラノ）、セルダヘイ大使の夫人で友情出演のセルダヘイ玲子さん（Reiko Szerdahelyi、ピアノ）の方々によって、リスト（Liszt）の「コンソレーション第3番」、同じくハンガリー出身のバルトーク（Bartok）の「ルーマニア民族舞曲」をはじめ、中田喜直作曲の日本の歌曲やアンコールの滝廉太郎作曲「花」など14曲が披露されました。日本ハンガリー友好協会の猪谷晶子専務理事や協会の会員の皆さまや地域の方々、教職員や学生・留学生など約500人が、晴れやかで美しい演奏に聴き入りました。

コンサートを機に、本学とハンガリー、そしてハンガリーの大学との一層の交流の推進



テープカットの様子



執務机と大礼服



日時…2015年7月1日
場所…城西大学坂戸キャンパス

城西大学坂戸キャンパスにて、水田三喜男記念館 展示室がオープンしました

が期待されます。

本学は、大蔵大臣などを歴任した水田三喜男が1965年4月、「学問を通しての人間形成」を建学の精神として坂戸市に創立しました。1983年に城西大学女子短期大学部

（その後城西短期大学）、1992年には千葉県東金市に城西国際大学を開校。2005年には三つの大学を結ぶ中心点として東京都千代田区紀尾井町に東京紀尾井町キャンパスを開設して今日に至っています。

2015年7月1日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は埼玉県坂戸市の城西大学坂戸キャンパスに「水田三喜男記念館展示室」を開校しました。本学は創立50周年を記念し、創立者水田三喜男の足跡をたどることによつ

て、その哲学と理念を共有し、本学のさらなる発展の礎とすることを目的に、水田三喜男記念館の建設を予定しています。このたび、記念館竣工までの間、総合体育館の学生ホールを整備して展示室をオープンする運びとなりました。

総合体育館前で行われたオープニング・セレモニーには、ゲオルギ・ヴァシレフ (Georgi Vasilev) 駐日ブルガリア大使夫妻や石川清・坂戸市長、石橋清孝・千葉県議会議員をはじめ、城西大学と城西国際大学 (千葉県東金市) の地元自治体関係者や地域の方々、教職員や学生ら約600人が参加しました。水田理事長は挨拶の冒頭で「大勢の方々においでいただき、今日、創立者記念館の展示室を見ていただけることは大変ありがたく思っております」と感謝の言葉を述べました。

そのうえで「学生はじめ多くの同窓生、関係者の方々に城西の歴史を共有していただくの目的を持って、記念館を建設することになりました。創立者は明治の志を持ち、教育を信じて、社会のため国のため、さらには国際社会のために貢献していく人材を育てることが自分の任務と考え、亡くなるまで力を入れてきました」と創立者の業績に触れ、「仮の展示ではありませんが、今日だけでなくまた、坂戸のキャンパスに足をお運びいただきたい」と述べました。

水田理事長やヴァシレフ大使、石川市長、石橋議員、学生代表らがテープカットしてオープニングを祝い、内覧に移りました。展示室は約160㎡。「水田三喜男の原風景」

「焼野原からの復興」「城西大学の創設」の3コーナーに映像エリアが設けられ、パネル展示のほか、勲一等旭日大綬章や各国からの勲章、銀盃、大臣名札、執務机などから、基盤、すずり石、大礼服などゆかりの品々を含め約130点を展示しています。また、映像エリアでは創立者の生い立ちから業績、ならびに本学の発展の歴史が映像で見ることができま。展示に際しては、創立者の出身地でゆかりの品々を収蔵・展示している鴨川郷土資料館の協力を受けました。

内覧後、ヴァシレフ大使夫妻は水田理事長の案内で、短大30周年を記念して2013年10月にオープンした「水田清子記念ローズガーデン」を訪れ、バラを鑑賞されました。開園時、ヴァシレフ大使から贈られた20本のブルガリアン・ローズの苗木は大きく育ち、ご夫妻は赤い大輪を前に笑顔で記念撮影に応じていらつしました。

経営学部棟のメディアエリアで行われたレセプションでは、ヴァシレフ大使をはじめ石橋県議、古川浩一・東金市副市長、庄司政夫・鴨川市副市長、佐藤秀樹・毛呂山町議会副議長、鈴木文雄・城西大学同窓会長の方々から、展示室オープンへのお祝いの言葉をいただきました。

国際学生寮 安房グローバル・ヴィレッジ

定礎式と竣工式を挙行



日時…2015年9月1日
場所…城西国際大学国際学生寮安房グローバルヴィレッジ

2015年9月1日、「城西国際大学 国際学生寮 安房グローバル・ヴィレッジ」(以下AGV)の定礎式と竣工式を行いました。

長谷川孝夫・鴨川市長をはじめ、観光学部協力会、アパートオーナー会、父母後援会、同窓生や創立者生家の周辺などの地域の皆様

に加えて、大連理工大学 (Dalian University of Technology) の杜鳳剛 (Du FengGang) 先生、フランス・パリ東大学クレティエ校 (Université Paris-Est Créteil Val de Marne) のエリック・ハーツラー (Eric Hertzler) 先生やイタリア・デルビアンコ財団 (Fondazione Romualdo Del Bianco) のコリンナ・デルビアンコ (Corinna Del Bianco) 理事などの海外からの来賓の方々にもご参列頂きました。

また、設計・建築にご尽力くださった大田純穂・先生をはじめ「大田建築設計研究所」ならび施工会社の清水建設、高砂熱学工業やユアテックの関係者様も見守る中、竣工式は厳かに行われました。

今回竣工したAGVは、学校法人創立50周年事業の一環として、教育環境の充実をさらに目指して建設が行われたものです。主に留

学生を対象とした収容人数101名の国際学生寮となっています。

AGVは、建物で中庭を囲むような構造が特徴となっており、学生同士や地域の皆様との交流などを深める空間となっています。ハウスマスターや国際学生委員会(仮)などが中心となって地域との連携を深めつつ、さまざまなイベントを企画し実施していきます。

AGVにおいて、「生活の場」のみならず、語学、異文化理解やコミュニケーションの「学びの場」や「国際交流の場」を通じて「学内留学」をさらに具現化し、アジアなどで活躍できる「グローバル観光人材」を育成していきます。



テープカットの様子



AGV 中庭

国際交流活動

学校法人城西大学一行が大連・瀋陽を訪問



日時…2015年5月30日～6月4日
場所…大連外国語大学、大連理工大學、東北财经大学、
東北大学、中華人民共和国

【城西大連・東北学友会】
学校法人城西大学創立50周年記念
城西大連・東北学友会を開催

2015年5月30日、大連市内のホテルで学校法人城西大学創立50周年記念城西大連・東北学友会第4回目の交流会を開催。今回は、昨年亡くなられた村井隆先生を偲ぶ会



学友会 全員で記念写真

でもありました。司会は、日中連携大学院の学生でもある由志慎（大連理工大學外国語学院（School of Foreign Languages, Dalian University of Technology）副院長）さんが務めました。

城西大学・城西国際大学で学んだ日中連携大学院の卒業生、在学生をはじめ、JMBASカラシップや共同教育プログラムの卒業生、向坊隆記念、村井隆奨学金、水田三喜男記念、水田宗子奨学金の受賞生、私費留学の卒業生等に加え、大連市人民対外友好協会（Dalian People Foreign Friendly Association）、大連理工大學、大連外国語大学（Dalian University of Foreign Languages）、中国東北大学（Northeastern University）から村井先生とご縁の深い方々、多くの来賓の先生方などが出席しました。

水田宗子理事長は、卒業生との再会を喜ぶとともに「村井先生のご遺志を継いで、日中両国の人材育成を今後も推進してまいります。」と述べました。

また、城西大学名誉博士・中国高級經理学院（China Business Executives Academy, Dalian）元顧問・林安西（Lin Anxi）先生と大連理工大學元書記・張德祥（Zhang Dexiang）先生、および大連市中日友好学友会会長（President of the Dalian China-

Japan Alumni Association）も務める大連理工大學の杜鳳剛（Du Fenggang）先生や、大連外国語大学の陳岩（Chen Yan）先生などから心のこもった挨拶をいただきました。

今回集まった卒業生たちは、今後とも努力を惜まず、一生懸命に学問に励み、日本語教育の発展、そして、中日の相互理解に自分なりの力で貢献したい、そして、母校のさらなる発展のために力を尽くしていきたいと口々にお礼を述べました。

また、最後に城西大連・東北学友会から、母校の創立50周年にあたり、大連のシンボルであるアカシアの木の贈呈と水田三喜男記念館に飾るための何かをプレゼントさせていただきたいと発表があり、大変感激しました。

【大連外国語大学】 大連外国語大学孫玉華学長表敬訪問

2015年6月2日、ロシア出張から帰られたばかりの大連外国語大学の孫玉華（Sun Yuhua）学長が、瀋陽へ移動する直前の我々一行をホテルにお訪ねいただき、親しく懇談を行いました。水田理事長と旧交を温める良い機会となったばかりではなく、城西大学・城西国際大学と大連外国語大学との今後の交流プログラムについてもさまざまな観点からディスカッションがなされました。特に高齢者福祉に関する新しい学科を本学との協力、交流をもとに創っていききたいという希望を述べておられ、今後のますますの交流の発展が期待されます。

また、ロシア語が専門の孫学長は、早速に水田理事長の「書かれなかったラブレター（Unwritten Love Letter）」楽譜集にロシア語訳を寄せていただき、多言語教育へもお力

添えをいただきました。

大連外国語大学において 「現代詩と翻訳」国際シンポジウムを開催

2015年6月1日、大連外国語大学において、大連外国語大学・城西大学・城西国際大学主催、日中短詩協会後援による国際合同シンポジウム「日中現代詩をめぐって——「現代詩と翻訳」を開催しました。

第一部として、開会の挨拶が大連外国語大学・劉宏（Liu Hong）副学長と学校法人城西大学・水田宗子理事長からありました。引き続き、漢俳についての講演が、陳岩先生（大連外国語大学）より、その後、「河の女神の声」と題する深い詩の話が、吉増剛造先生（詩人・城西国際大学）よりなされました。



座談会の様子

第二部は、詩人による朗読会で、吉増剛造、水田宗子、簫簫(Xiao Xiao)、寒煙(Han Yan)、田原(Tian Yuan)、カリヨン通りの会の仲間による今回のために作られた四行連詩が読み上げられました。詩人たちがそれぞれの母語作品を読み終わり、次に大連外大の学生たちがそれぞれの訳された日本語の詩を読み上げたのですが、もともと感激したのは、学生たちの日本語の発音が流暢だっただけでなく、瞳を輝かせながら、その詩行に潜むリズム感と詩人の隠した感情までも正確に読んだことでした。これは両大学にとって、新鮮かつ有意義な試みだったと言えます。

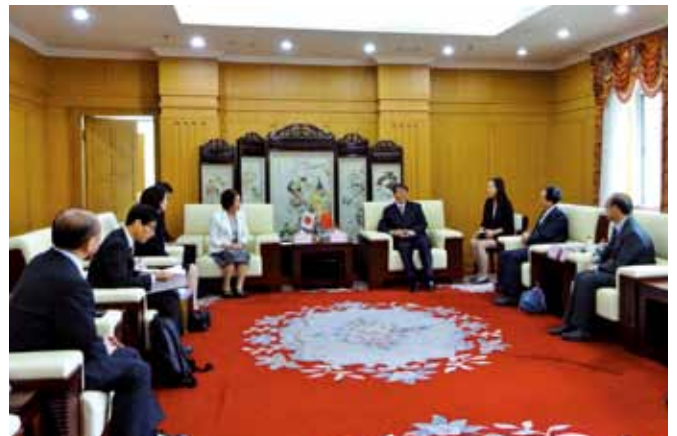
第三部は、「詩と翻訳について」をテーマに、水田宗子、陳岩、杜鳳剛、劉利國(Li Ligu)、吉増剛造、田原諸氏による「カリヨン通り」座談会が開催されました。詩の翻訳の困難さについて、それぞれの立場から話があり、その解説もされましたが、それはどうしてもなされなければならないことだというところで一致をみました。

日中の大学で連携して多くの詩人を招き、現代詩と翻訳についてのシンポジウムが開催できたことは、非常に多くの意味と教育的効果がありました。今後も継続的に行ってまいりたいと考えています。

【大連理工大学】 大連理工工大学 魏小鹏党委書記表敬訪問

2015年6月2日、水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学一行は、新しく就任された魏小鹏(Wei Xiaopeng)党委書記を表敬訪問いたしました。

魏党委書記は、これまでの大連理工工大学と本学の交流の経緯ならびに実績をすべて理解



大連理工工大学 魏党委書記と会見

しておられ、奨学金授与、日中連携大学院、J MBA制度、水田三喜男記念文庫、本学への研修訪問について、一つ一つあげて感謝を述べられました。今回が初めての会見ということもあり、長い時間をいただき、今後の交流についても懇談がなされ、これまでの交流を大切にしつつ、あらたに広がりをもった関係にしていくことを確認しました。

大連理工工大学にて、 「向坊隆記念」村井隆奨学金、 「水田三喜男記念」 水田宗子奨学金授与式および 水田三喜男記念文庫第11次贈呈式を挙

2015年6月2日、水田理事長と魏小鹏党委書記の会見に引き続き、賈振元(Jia



水田奨学金の授与式

Zhenyuan) 副学長をはじめ同大学の先生方のご出席のもと、「向坊隆記念」村井隆奨学金、「水田三喜男記念」水田宗子奨学金授与式が行われ、大連理工工大学大学院の両奨学生計20名に水田理事長および村井隆顧問から奨学金が贈呈されました。授与された院生は、いずれも大連理工工大学の各専門分野の博士課程と修士課程から特に選ばれた皆さんであり、今後の研究活動、そして社会での活躍を大いに期待したいと思えます。

その後引き続き、水田三喜男記念文庫の贈呈式が行われ、城西大学・福島和伸先生から大連理工工大学経済管理学部(Faculty of Management and Economics of Dalian University of Technology)学部長の蘇敬勤(Su Jingqing)先生に文庫の目録が贈られました。水田三喜男先生が日本経済発展に

大きく貢献された軌跡を辿る図書から選書を始め、今回まで累計883冊を寄贈。今回は、第11回、白書など政府系刊行物、学校法人城西大学出版会の新刊図書、城西大学・城西国際大学の紀要に加え、女性リーダー育成の図書など、計64冊を寄贈しました。この記念文庫は、大連理工工大学経済管理学部MBAに設置され、日本の経済やビジネスに関心のある研究者・院生、城西大学大学院経営学研究科とのJ MBAプログラムに留学予定の院生に、とくに多く利用されているとのことでした。

【東北財経大学】 東北財経大学と協定を締結しました

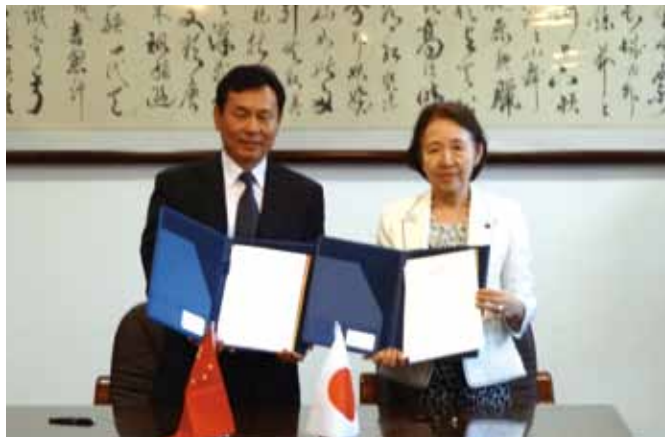
水田宗子理事長を団長とする一行は、2015年6月2日に大連市にある東北財経大学(Dongbei University of Finance and Economics)を訪ね、夏春玉(Xia Chunyu)学長と会見しました。東北財経大学側には、夏学長の他に張語辞(Zhang Yuci)国際交流センター所長、趙建国(Zhao Jianguo)大学院院長、張軍濤(Zhang Juntao)教務部長、張向達(Zhang Xiangda)公共管理学院長と劉曉梅(Liu Xiaomei)公共管理学院教授らが出席されました。

東北財経大学は、1952年に設立された中国の名門商科大学で、財政税務学院、金融学院、経済学院、会計学院、法学院、旅游とホテル管理学院、国際経済貿易学院、国際商学院など計25の学部を有し、学生数が約1万9千人です。

夏学長は歓迎のあいさつで「東北財経大学は学校法人城西大学と一緒にMBA教育、地域医療福祉、医療ツーリズム、国際看護人材育成などの分野において共同研究・共同教育を進めていきたい」と述べられました。

引き続き、水田理事長は、城西大学と城西国際大学の教育内容及び最近の取り組みを紹介し、特に国際教育の特色を説明しました。さらに、今後高齢社会の進展に応じて、東北財経大学との交流を繰り広げ、経営管理や医療福祉分野を始め、環境分野、介護分野などインターディシプリナリーな共同教育と共同研究を行っていききたいと述べられました。

会見後、両学の間で包括協定を締結しました。今後、本協定に基づき、両学で協議をしながら日・中間の共同研究を進めると同時に、経営・福祉・メディア・観光・人文・環境の領域における大学院生（1+1）などの具体的な共同プログラムの推進が大いに期待されます。



協定締結 東北財経大学夏春玉学長と

「大連作家協会主催 日中詩人朗読会」 大連市内の「大連万和祥茶楼」にて 詩の朗読会を開催

6月2日、大連市内の美しい「漢風文化ビル」で行われた朗読会には、北京から中国現代詩を代表する詩人の西川（Xi Chuan）と簫蕭両氏が、そして、大連市の詩人が10名、日本側からは水田宗子氏、吉増剛造氏、田原氏とこちらも日本を代表する詩人が集いました。

一人一人、魂を込めての朗読は、心ふるえるもので、一期一会の貴重な機会となりました。大連外国語大学の学生たちが、母語のあとに日本語、あるいは中国語で読み上げてくれ、どちらの詩人たちも母語にはない、別の美しい調べを堪能し、懸命に読んでくれた学生たちに感謝の意を表していました。学生た



四行連詩朗読

ちにとっても意義深い経験だったと思います。

今回朗読された日本側の詩人たちの作品は大連市政府が所属する60数年の歴史を持つ『海燕（Haiyan）』という文芸誌に掲載される予定です。

会の冒頭、朗読会のために演奏された江城（Jiang Cheng）と関傑（Guan Jie）の琴の演奏もとても美しく、朗読会へ誘い、有名な書道家である王奇（Wang Qi）氏が、書を日本の詩人たちにプレゼントしてくださいました。

東北大学にて 水田理事長の特別講義と 日中連携大学院講演会を開催

2015年6月4日、瀋陽東北大学漢卿会堂にて、東北大学特別客員教授として水田宗子教授の特別講義が行われ、同大学で日本語日本文化を学ぶ学部生・院生の約80名が聴講しました。

同講義は、日中連携大学院の集中講義の第二回として行われ、前回に続いて「文学批評とは何か・文学批評の誕生と西欧近代化」がテーマとなりました。批評家の誕生について、また、日本においては、明治期以降、西欧文学とともに批評活動が導入され、その影響下に発展してきたことが語られました。文学や文化を知るための重要なテキストとして位置付けた同講義は、文学研究を志す学生だけでなく、言語や文化などに関心を持つ多くの聴講生に対しても大いに刺激を与えるものとなりました。

特別講義に続き、日中連携大学講演会が開催され、人文科学研究科の三木紀人・客員教授と岡田美也子・准教授が講演を行いました。まず、三木教授は、「宮尾登美子日記



水田理事長 東北大学特別客員教授として講義

（1970年前後）を読む」と題して、満蒙開拓団の一員として吉林省に渡り、引き揚げ後、作家となった宮尾登美子を取りあげました。併せて、満洲文学を研究テーマとする在学生の本学での学びを紹介しつつ、博士号への道筋を説明しました。次に、岡田准教授が「中世説話文学の語りと文体」と題して、説話文学の概念規定を総括したうえで課題を述べ、物語文学との関係性について話しました。

今回聴講した学生たちは、日本語という言語を媒介として、日中両国だけでなく、中国と世界、日本と世界をつなぐ役割を果たすことが期待される人材です。瀋陽東北大学と本学は、学部・修士・博士課程において共同教育を実施しています。今後も、大学間の様々なプログラムにより日中両国の学生をグローバル人材として育ててまいります。

【瀋陽 東北大学】 東北大学趙継学長を表敬訪問

2015年6月4日、新しく就任された趙継 (Zhao Ji) 学長と懇談いたしました。趙学長は、これまでの城西大学と東北大学の深い連携についてよくご存じで、まず、本学に対し、日中連携大学院における博士号取得の教育について、深い感謝を寄せられました。

また、日本留学経験もありの趙学長は、グローバルコミュニケーション大学院における連携教育についても大きな期待をしておられ、両学でよりよい人材育成をしていけるように支援を約束されました。

また、その後、姜茂発 (Jiang Maofa) 副学長、孫雷 (Sun Lei) 副学長とも懇談し、東北大学の広大で美しい新キャンパスも案内いただき、東北大学が大きな飛躍の時期であることもよくわかりました。数年来築いてきた信頼のもと、さらなる交流の推進をしまいたいと思います。



東北大学 趙継学長と

学校法人城西大学 一行が韓国の大田・釜山を訪問

日時：2015年8月21日～8月24日

場所：韓南大学校、東西大学校、大韓民国



【韓南大学校 (Hannam University)】 水田宗子理事長に名誉教育学博士号が 授与されました

2015年8月21日、水田宗子理事長は、韓国の大田にある韓南大学校から教育学名誉博士号を授与されました。

本学は、2009年に韓南大学校と学術交流協定を締結し、交換留学や国際文化研修などを中心に活発に交流してきました。

2012年12月には、城西国際大学の創立20周年を記念して設立した「Prince Takamado Memorial Sports Park (高円宮殿下記念スポーツパーク)」におきまして、日本サッカー協会の名誉総裁を務められている高円宮妃殿下のご臨席のもとで第一回サッカー国際親善試合を行いました。こうした日本と韓国両国の友好の推進に努めてこられ、スポーツ、教育、若い人の人材育成に力を尽くしている水田理事長に名誉博士号が授与されたものです。

韓南大学校は、1956年4月に創立され、来年創立60周年を迎えます。韓国中部地方の名門私立大学で、学生数は、約1万3千人を数えます。

博士号の授与式は韓南大学のホールで行われました。金炯泰 (Hyunjae Kim) 総長から名誉博士号を授与された水田理事長は「韓南大学校は親しい姉妹校であり、韓国の高等教育の中心を占める、世界的に有名な大学であります。そのような貴校より名誉教育学博士号を授与され、みなさまのお仲間に加えていただきましたことを、大変うれしく、また誇りに思います。これからは貴校の信頼に応える大学として、国際教育の更なる向上に努め、二十一世紀の平和な世界と、韓国、日本の友好的な協力関係を築くことに貢献できる人材育成に全力を挙げて努力したいと思えます」と述べられたあと、韓南大学校の学生らに対し「ぜひJ・U、日本を訪れ、アジアのあり方、世界のあり方について思索してください。世界を背負う人材になってください」と呼びかけられました。

授与式には、佐藤勝・駐韓日本大使館公報文化院長、白春喜 (Park Chung) 大田市副市長らも出席しました。佐藤院長は「日韓国交正常化50周年に当たります。このような両大学の若い世代の教育・スポーツ交流を通して、50年後、100年後の明るい未来が築かれることを期待しています」と述べられました。

なお2014年4月には、高円宮妃殿下へ韓南大学校より名誉博士号が授与されています。

金総長は「韓国と日本の関係は、冷え込んでいる文化、教育などの分野では、交流は進んでいます。韓日の友好を深めることにおいて、韓南大学校と城西・城西国際大学との交流は、良い見本です。高円宮妃殿下に続き、水田理事長に名誉博士号を授与させていただきます」と話していました。



名誉博士号を授与された水田理事長 (右側は、金総長)

会場には、この日の午後、親善試合を行う城西国際大学の男子サッカー部の学生や韓南大学校関係者が多く詰めかけました。最後に、女性ソリストの鄭真雅 (Chong Shin-a) さんが、美しい声でお祝いの歌を披露してくださいました。

●記念植樹式が行われました

授与式後、サッカーの親善試合が行われる韓南大学校の大運動場前で両大学関係者による記念植樹式が行われました。植樹されたのは、日本海に浮かぶ鬱陵島 (Ulleungdo) の松。金総長は「花を見るには1年、木を育て見るには10年みなければならぬ、とのことわざがあります。この松は、雪が降っても青色に輝きます。今後、両大学、両国も、この青色のような関係を維持していきたいと思えます」と挨拶しました。

2012年の第一回サッカー国際親善試合の際、「高田宮殿下記念スポーツパーク」に、金総長の出席のもとで松の木が記念植樹されましたことを念頭に、水田理事長は「若い学生ら次世代の活躍と両大学の友好が深まることをここで植樹されたこの木が証人になってくれるでしょう。城西国際大学のスポーツパークの松を見るたびに韓南大学校のことを思い出します」と述べられました。

●サッカー交流で深まる友好

名誉博士号授与式・植樹式のあと、城西国際大学と韓南大学校による第二回サッカー国際親善試合が行われました。韓南大学校は、韓国学生サッカーリーグ2位の實力を持ち、Jリーグにも多くの人材を輩出しているサッカーの強豪校です。また、JIUサッカー部は、元日本代表チームコーディネーターの小山哲司監督のもと



心のこもった「親善試合歓迎」の文字を刻んでプレー

と、千葉県大学サッカーリーグ1部に所属、関東大学サッカーリーグ昇格を目指しています。

開幕式では、倉林真砂斗・城西国際大学副学長が「高田宮妃殿下の臨席のもと行われた前回の親善試合では、韓南大学校が花を持たせてくれ、2対1で城西国際大学が勝利しました。今回、妃殿下からのお祝いのメッセージをいただき、金総長にご披露しました」と述べました。

1万人を収容出来るという大運動場には、韓南大学校の学生、教職員や地元のサッカーファンら多数、詰めかけました。炎天下、両校選手たちは、汗びっしょりで駆け巡りました。前半40分、城西国際大がシュートを入れリードしましたが、韓南大学校が奮起し、前半終了直前に追いつきました。後半戦は、息をむく攻防が繰り返されましたが、結局、今回は1対1の引き分けに終わりました。

試合後、大田市内のレストランで送別レセプションが行われました。両校の選手、監督や水田理事長、金総長ら関係者が出席しました。両校選手は、同じテーブルに着き、韓南大学校の学生の通訳のもと、健闘を讃えあったり、互いの学生生活を紹介したりするなどなごやかに歓談しました。

小山監督や選手らは、韓南大学校関係者とベナントなどを交換し、次回の親善試合での再会を約束していました。

【城西大学校 (Dongseo University)】 GAA発足式 (Official Launching Ceremony) 開催

2015年8月24日、Global Access Asia (GAA) はこれからのアジアの時代に向けての国際教育の重要性に鑑みた高等教育の新たな方策として2014年に Asian University President Forum (AUPF) で



AUPF メンバーが一堂に会し、GAA が発足

合意されたオンライン教育システムで、その発足式が韓国釜山の本学と姉妹校である東西大学校で開催されました。

このオンライン教育システムのタスクフォースであった城西国際大学を初めとする5大学を代表して発足式において水田理事長が文化的多様性に基づくアジアからの発信の意義の大きさに基づく祝辞を述べられました。引き続きのラウンドテーブルディスカッションではこの9月からのスタートを踏まえ、質保証の在り方、GAAのさらなる充実、またGAAと組み合わせさせた様々な国際教育プログラムの可能性等についての熱のこもった討議がなされました。

韓国東西大学校訪問 GAA 調印と共同映画製作へ合意

●城西国際大学、韓国・釜山、東西大学との共同映画製作、第2弾の製作が開始!

2013年3月、城西国際大学開学20周年記念として、城西国際大学メディア学部と韓国の提携パートナーである東西大学の共同製作による映画「冬の火花」が完成、上映されました。この作品は、東日本震災で妻と娘を失い、千葉県鴨川で避難生活を送る男性と韓国人の女子留学生の交流が、互いの孤独感を癒すことでさわやかに描かれています。韓国側によるオリジナル・ストーリーを、日本側が、風土、習慣に合わせて修正するといった製作プロセスは、国際共同製作ならではのことで、映画製作を通じての交流は、両国の学生に大きな体験となりました。

そして2015年、城西国際大学と東西大学は、同時に開学50周年を迎えることになり、そこで、両校はその記念として、再び共同で映画の製作を行うことになりました。今回の共同製作は、水田宗子城西国際大学理事長が、8月22日に東西大学を訪問し、朴東順(Park Dongsoo) 理事長と協議し合意されたものです。水田宗子理事長、朴東順理事長ともに、この共同製作によって提携大学としての絆を一層深め、前作を上回る作品が出来るよう協力しあうことを話し合いました。

共同製作のパートナーとなる東西大学 Film & Video 学科は、プサン国際映画祭のメイン会場となるセンタム・シティ (Centum City) のシネマ・センターに隣接した、映画を学ぶには絶好のロケーションにあります。キャンパスには、1140席の大ホールをはじめ、100席の試写室が2スクリーン、ボスプロ施設、最新鋭の撮影器材をそろえています。

また、キャンパス内には、韓国映画界の巨人、イム・グォンテク (Im Kwon-taek) 監督のあらゆる資料をそろえたミュージアムもあります。

共同製作による第2作目は、ブサン国際映画祭が終了する2015年10月中旬から準備に入り、年内にはシナリオを完成させ、来春には撮影に入る予定です。企画の前提は、鴨川を背景として、韓国、日本の交流を描くことで、両大学からシナリオを募り、このプロジェクトを担当する両校の映画教員が優秀作品を選出します。ここから、この企画に参加する両校の学生は、シナリオの修正、撮影の準備、撮影、ポスト・プロダクションといった

た映画製作の過程を共同で行います。この異なる文化、考え方を持つ人々との共同作業こそ、国際共同製作の重要なテーマと考えています。この体験を通じて、学生たちは、視野を広げ、大きく成長するはずです。

映画の完成は、来春から夏ころを予定し、2016年ブサン国際映画祭の開催に合わせて東西大学のホールでのプレミア上映を計画しています。

学校法人城西大学一行がフランスを訪問

日時…2015年9月22日～27日

場所…パリ・エスト・クレティユ大学、フランス国立東洋言語文化研究所、リール・カトリック大学、ギメ美術館、ブルゴーニュ大学、フランス共和国



水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学一行（北村幸久・理事長室室長、久米五郎太・欧州研究センター副所長、メディア学部 Romain Duchesnes 先生）は、2015年9月22日から27日まで、フランスを訪問しました。本学はリール・カトリック大学 ESEGC (ESEG School of Management, Université Catholique de Lille)・リール・カトリック大学 (Université Catholique de Lille) に続いて昨年10月、パリ・エスト・クレティユ大学 (Université Paris-Est Créteil Val-de-Marne) と学術交流協定を締結。このほど、学内に欧州研究センターを設立しました。

今回の訪問は、新しい地域にある大学との協定締結、既存大学との交流の促進のため新たな研修プログラムを大学ならびに美術館等と調整することを目的としたもので、リール・カトリック大学と新たに1+1のプログラムの調印、Université de Bourgogne と学術交流協定を締結、訪問したリール・カトリック大学、パリ・エスト・クレティユ大学、フランス国立東洋言語文化研究所、リール・カトリック大学、ギメ美術館、ブルゴーニュ大学、

リック大学、パリ・エスト・クレティユ大学 Université de Bourgogne、ギメ美術館等と新しい語学と文化についての研修プログラムについて調整することが出来、本学とフランスとの学術交流の促進に具体的成果を挙げることができました。

9月22日午前 パリ・エスト・クレティユ大学訪問

面談では両学から学校紹介があった後、本学から欧州研究センターの設立の経緯と今後の活動について説明を行いました。先方からは「国際教育の充実のため、ぜひもっと多くの学生を送りたい」との要望が出され、本学としても受け入れ態勢の整備に前向きに取り組むことを約束しました。

また、共同教育として「ダブル・ディグリー1+1プログラム」の具体化の検討を進めることで合意。現在の経済経営関係の協力



パリ・エスト・クレティユ Hitinger 学長と

関係から、さらに拡大して大学院の1+1や他の学部との交流を推進することでも合意しました。

面談後は、キャンパスツアーを経て、Luc Hitinger 学長とランチを一緒にして医学博士でいらっしゃる学長と両学の理系分野での交流の可能性について、幅広い議論がなされました。

9月22日午後 フランス国立東洋言語文化研究所 (INALCO) 訪問

日本現代政治・文化が専門の Lucken 教授と面談しました。教授からは INALCO の特徴や日本との関係などの話があったあと、本学から、「世界の中の日本」プログラムの取り組みや2016年1月13、14日に予定し

ている国際シンポジウムの説明を行い、今後、フランス国立東洋言語文化研究所の日本関係の先生方との交流を含め、本学との協力関係を依頼して快諾を得ました。

9月23日 リール・カトリック大学 (Université Catholique de Lille) 訪問

本学から派遣するフランス語研修について、研修の担当である McGregor 先生とともに日程や具体的なカリキュラムなどの協議を持ちました。本学からは、欧州研究センターを含め支援センターの概要を説明。大学院の Sandu 教授が手掛ける政策科学（食文化、サイバー・セキュリティを含む）に関する1+1等の調印を行うとともに、今後は幅広い大学院交流を進めることで合意しました。



リールにて大学院との交流のミーティング



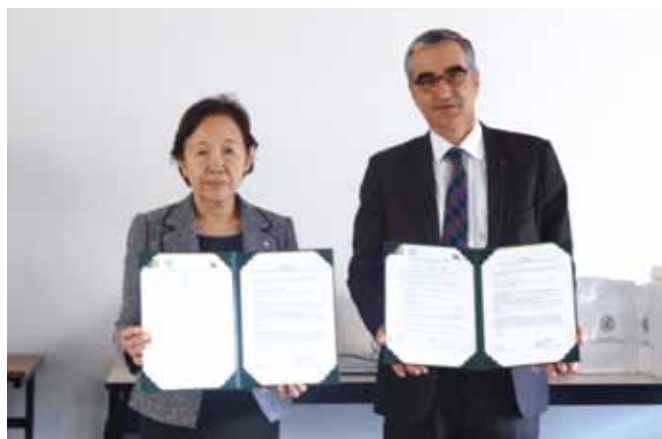
ギメ美術館での打ち合わせ

9月24日 ギメ美術館訪問

本学の学生のフランスにおけるの研修に際し、ギメ美術館での受け入れについて依頼しました。先方からは、本学が城西大学と城西

キャンパスツアーでは、本学へ留学したのち現在国際センターに就職した学生が案内を務めてくれ、薬草園やイノベーションセンタールビルなど古さと新しさが同居する大学の魅力を体感しました。

Giorgini 学長との面会では、学長が本学との交流をよくご存じで、グローバル化時代における日本の重要性と日本におけるパートナー大学として城西大学に大きな期待をされていること、さらに交流を発展させてほしいとお話されました。



ブルゴーニュ大学と調印

9月25日 Université de Bourgogne 訪問

国際大学で実施する講義「世界の中の日本」というテーマに、このギメ美術館は本当にふさわしいと思うと全面協力の申し出がありました。バックヤードや倉庫なども特別にお見せいただけることでした。

両学の紹介・説明の後、本学の欧州研究センターなど支援センターの説明を行いました。その後、Bonin 学長と学術交流協定を締結し、フランスの大学では4番目の締結が実現しました。

その後、短期、長期の教育交流について意見交換。先方からは、本学に学生（3名を想定）を早く送りたいとの要望が出され、本学は歓迎の意向を伝えました。また、本学が希

望する短期学生研修について、早期に先方の受け入れの提案をいただくことになりました。

Bonin 学長も医学博士でいらっしゃるこ

城西大学J MBA スカラシップ奨学生授与式を挙

日時：2015年5月12日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



連携協定を結んでいる大連理工大学管理学院 (Faculty of Management and Economics of Dalian University of Technology) からの大学院生 (MBA) を対象にした「城西大学J MBA スカラシップ奨学生」の今年度の授与式が2015年5月12日、東京紀尾井町キャンパス1号棟で行われました。

今回授与されたのは、程丹燕 (Cheng Danyan) さん▽鄭方銳 (Zheng Fangrui) さん▽武慧 (Wu Hui) さん▽劉楠 (Liu Nan) さん――

の4人。いずれも大学を卒業し、いったん企業で働いた後、大学院に入学しました。賞状授与の後、水田宗子理事長は挨拶で「多くの方々のおかげで大連理工大学との連携大学院であるJ MBA が出来た。先人たちの交流、連携の大切さを忘れずに、後輩のために色々な道を開いてほしい。そして素晴らしい職業人になって、世界に貢献できる人材になってほしい」と呼びかけました。また森本雅憲学長は「来年3月までの時間を大事に一生懸命勉強して、世界で活躍できる才能を伸ばしてほしい。将来は、日本と中国の丈夫な懸け橋になってほしい」と激励しました。

4人を代表して鄭さんが「城西大学に来て1年半。教職員の皆さまのきめ細かいご指導をいただき、日本の友達と勉強したり、遊びに出かけたり、楽しい留学生活を送っていま

とから、本学の薬学、看護、福祉、理学療法、など医療福祉関係の相互の関係性について話が弾み、大きな期待が寄せられました。

す。1年間の過程を修了した後は、城西大学の卒業生として、将来、世界のどこにいても自信を持って頑張れると確認しています」と謝辞を述べました。

本学は2007年に大連理工大学と学術交流協定を締結。2009年からJ MBA プログラムを開設し、これまで27人の留学生が城西大学の修士号を得ています。



留学生4人を囲んで授与式後の記念撮影

フィリピン日本語文化学院(PJLC)

と学術交流協定を締結

日時…2015年5月15日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



学校法人城西大学は、2015年5月15日にフィリピン日本語文化学院 (Philippine Institute of Japanese Language and Culture Foundation) と学術交流協定を締結しました。

同学院の院長 Philip B. Sanvictores 氏は、フィリピン元留学生連盟会長、本年はアセアン元日本留学生評議会の議長も兼ねておられて、その打合せを兼ねての来日の機会に、ご婦人とともに本学を訪問され、水田宗子理事長と会談されました。



学術交流協定を締結

フィリピン元留学生連盟は、駐日フィリピン大使であったホセ・S・ラウレル三世 (JOSE S. LAUREL III) により1976年に設立され、フィリピン日本語文化学院も同氏が理事長を務める日比友好財団によって1992年に設立されました。同学院は、日本留学を支援するため日本語能力試験 (JLPT) に対応する教育を広範に実施していますが、日本の産業界の人材ニーズの高まりに応じ、IT、製造、サービス、建設、観光、福祉介護等々の職業別日本語教育のためのフィリピン人教師の養成が喫緊の課題となっており、この面での本学との提携に期待しています。このほか本学からの教師・学生の派遣も含めた交流を進めていくことも期待されます。

「Asia Summer Program 2015」が開会

日時…2015年7月7日
場所…城西国際大学千葉東金キャンパス



2012年から学校法人城西大学を含めアジア5大学が中心となり、未来をけん引する

人材を育成することを目的にスタートしたプログラム「Asia Summer Program 2015」が

7月7日に千葉東金キャンパスで開会しました。

4回目となる今年は、城西大学（埼玉県坂戸市）・城西国際大学（千葉県東金市、鴨川市）合同で開催し、各キャンパスを舞台にアジア圏の学生たちが7月28日まで3週間にわたり生活を共にしながら一緒に学びます。参加国は、日本、中国、韓国をはじめタイ、インドネシア、バンラデシ、リトアニア、マレーシア、フィリピンの計9か国、14大学から計約150名の学生が参加しています。

期間中は、アジアの経済、社会、文化などの講義のほか、友好・交流を深めるさまざまなアクティビティも催されます。講義・行事はすべて英語でおこなわれるため、海外にいるような雰囲気体験できるようになっています。これだけ多数の国々から多数の学生が集い、長期間にわたり学ぶ、日本とアジア、世界を結ぶ「知の地平線」の広がりが期待されます。

講演会・シンポジウム

学校法人城西大学創立50周年記念特別講演会

天津外国語大学学長・修剛先生講演会を開催

日時…2015年5月8日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2015年5月8日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は創立50周年を記念して天津外国語大学（Tianjin Foreign Studies University）の修剛（Xiu Gang）

学長による特別講演会「大学のグローバル人材・高度職業人教育に関する取り組み」を東京紀尾井町キャンパス3号棟で開催しました。



開会式の様子



講演する修学長

修学長は日本語教育が専門で、現在の中国の大学学長の中で唯一日本を専門とする学者です。中国の日本語教育の学会である中国日本語教育研究会の会長を務め、現在は中国教育部の外国語教育指導委員会・日本語委員会の主任、中国翻訳協会副会長の要職にあります。

本学と天津外国語大学は、2007年10月に学術交流協定を締結しました。大学院、学部にてこれまで300人を超える学生が学びにきており、また教員の交流も行われています。こうしたことから2011年9月には、修学長に城西国際大学の名誉博士号を授与いたしました。現在、天津外国語大学大学院の14人の学生が、半年間の短期留学で城西国際大学メディア学部ビジネスデザイン研究科に学んでいます。

講演に先立ち、水田理事長は「世界的に著名な修先生のお話は、私どもに大きな示唆を与えてくれるものになります」と挨拶しました。修学長は、副題「中国の大学教育改革の方向性と日中大学間の協働の可能性」が付いたこの日の特別講演で「グローバル人材の育成はこれからの大学の大きな方向性の一つ。また、中国では専門性を持った高度職業人の育成にも力を入れている。グローバル人材と高度職業人の育成は、中国と日本の大学の共通認識で目標でもある。交流の歴史と実績、文化的・距離的に近いことなどから、中日大学間の協働には大きな可能性がある」と指摘したうえで、「天津外国語大学と城西国際大学、城西国際大学の行動がモデルの一つになればいい」と結ばれました。また、昨今の日中関係にも触れ、「隣人との付き合いを大事にしなければならぬ。国民同士の交流を通じて、中日関係を良くしないといけない」と述べられました。

講演会には城西国際大学と城西大学の教職員や天津外国語大学はじめ中国からの留学生ら約100人が参加し、長い経験に裏打ちされた修学長のお話に熱心に聞き入りました。

歓談の輪が広がった講演会後のレセプションでは、天津外国語大学出身で留学生の楊萌萌（Yang Mengmeng）さんが、瓢箪（ひょうたん）の笛による「月の下の竹」の演奏を披露すると、修学長は笑顔で大きな拍手を送られていました。

この日の特別講演会を機に、天津外国語大学と本学との一層の交流の強化が期待されます。



挨拶するソルゴ大使

2015年6月22日、学校法人城西国際大学は東京紀尾井町キャンパスで「城西日本・スロベニアシンポジウム『女性作家と女性映画監督…その歴史的意義』を開催しました。創立50周年を記念したシンポジウムで、駐日スロベニア大使館とともに城西国際大学メディア学部、ジェンダー・女性学研究所が共催いたしました。

講演会 シンポジウム

学校法人城西国際大学創立50周年記念

城西日本・スロベニアシンポジウム「女性作家と女性映画監督…その歴史的意義」を開催

日時…2015年6月22日

場所…学校法人城西国際大学東京紀尾井町キャンパス

本学は、駐日スロベニア大使館のヘレナ・ドルノウシエク・ゾルコ（Helena Drnovšek Zorko）大使のご支援によって、このほど本学とスロベニアの大学では初となる学術交流協定をノヴァ・ゴリツァ大学（University of Nova Gorica）と結びました。女性であるゾルコ大使はジェンダー問題についても関心が高く、女性学・ジェンダー研究の充実をはかる本学との交流によって、今回のシンポジウムが実現しました。大戦中はナチスの収用所、戦後はユーゴスラビアで投獄されながら人権のために闘ったスロベニアの女性、アンゲラ・ヴォデ（Angela Vode, 1892～1985年）についてのドキュメンタリー映画「隠された記憶」（2009年）などをめぐって、映画や文学、フェミニズムの歴史的意義について討議しました。

シンポジウムの開会にあたり、水田宗子理事長は挨拶で「本学は海外の大学、特に中欧、東欧諸国との協力関係づくりに励んできました。我々に世界、そして日本について考える場を与えていただき、感謝申し上げます」と述べて、ゾルコ大使に名誉栄誉教授の称号を授与しました。これに対し、ゾルコ大使は「私は7月末で離任しますが、城西大学とこんなに良い関係を結ぶことが出来て、とてもうれしく思います」と感謝の言葉を述べました。

続いて「隠された記憶」のダイジェスト版の上映が行われ、マヤ・ヴァイス (Maya Weiss) 監督は「ヴォデは精神の自由が最も大事と言っていた。精神の自由を主張したロールモデル」などと、ヴォデの生涯と映画を解説しました。

ノヴァ・ゴリツァ大学のカティア・ミフルコ・ボニシュ (Katja Mihurko Poniz) スロベニア文学准教授・人文科学部学部長が基調講演。休憩をはさんで、ゾルコ大使、ヴァイス監督、ボニシュ准教授の三方に、本学側から映画評論家の村川英・城西国際大学客員教授、竹藤佳世・准教授、林千章・講師が加わって、和智綴子・教授の司会で、人権やジェンダー論、女性作家の未来などをめぐってパネルセッションが展開されました。

城西国際大学や城西大学の教職員や学生・留学生約160人が熱心に耳を傾け、シンポジウムに引き続き行われたレセプションでは和やかな雰囲気のもと、歓談の輪が広がりました。

シンポジウムを機に、本学とスロベニア、

ノヴァ・ゴリツァ大学との交流の促進が期待されます。



パネルセッションの様子

学校法人城西大学創立50周年記念特別講演会 「フランスで賞賛された

明治の風刺画家 河鍋曉斎」を開催

講演会
シンポジウム

日時…2015年7月17日
場所…東京紀尾井町キャンパス

学校法人城西大学は、2015年7月17日、東京紀尾井町キャンパスで特別講演会「フランスで賞賛された明治の風刺画家 河鍋曉斎」を開催しました。創立50周年を記念した特別講演会の一環。クリストフ・マルケ (Christophe Marquet) 日仏会館日本研究セ

ンター所長が講師をつとめ、学生、教職員のほか「曉斎ファン」ら約160人が聴き入りました。

河鍋曉斎(かわなべ・きょうさい、1821~1889年)は、幕末から明治にかけて活躍した異端の画家。1870(明治3)年

には筆禍事件で捕えられたこともあるほどの反骨精神の持ち主で、多くの戯画や風刺画を残しています。狩野派の流れを受けているが、他の流派・画法も貪欲に取り入れ、自らを「画鬼」と称し、その筆力・写生力は群を抜いていたが、近年まで日本の美術史の中では忘れられた存在でした。しかし、欧州では19世紀末に日本の代表的な画家として北斎に次いで賞賛されておりました。

講演に先立ち、水田宗子・学校法人城西大学理事長は「マルケ先生は、日本とフランスの文化交流の研究や人材育成に力を入れてきた方です。本学では『世界の中の日本』をテーマにした教育プログラムを持つっており、先生の講演は、学生らに大きな示唆を与えてくれると確信している」と挨拶しました。

講師のクリストフ・マルケ氏は、1965年、フランス生まれ。日本近世・近代美術史と出版文化史が専門で、編著に「日本の文字文化を探る——日仏の視点から」「テキストとイメージを編む——出版文化の日仏交流」などがある。フランスでは中村芳中、葛飾北斎、喜多川歌麿、曉斎など数多くの江戸・明治の画譜の翻訳と復刻を出版。曉斎の遺作『曉斎百鬼画談 (Kyōsai hyakki gadan; L'histoire illustrée des cent démons)』を仏訳・復刻されております。

マルケ氏は、フランスを中心に美術館、博物館などを現地調査、「曉斎の足跡」を追い求めてきました。その際に写しとったスライ드를駆使しながら「曉斎はいつ、なぜフランスで有名になったか」について言及されました。

曉斎は、東洋の宗教調査のために来日したフランス人実業家エミール・ギメ (Émile Étienne Guimet) と画家フェリックス・レガメ (Félix Regamey) が、1880年に彼らの著書『日本散歩 (Promenades japonaises)』

の中で初めて紹介したことがきっかけで、フランスで諷刺画家として高く評価されるようになりました。ギメ美術館所蔵の絵本や、フランスの有名雑誌の表紙の挿絵なども紹介されました。マルケ氏は「筆禍事件では、曉斎は3か月間、投獄され、『反骨の画家』のイメージが、フランスで定着しました。ヨーロッパにかぶれず、日本的な美意識を全うしたことが高く評価された」と説明しながら「曉斎没後に『フィガロ紙 (Le Figaro)』が1面でその訃報記事を掲載したほどだ」とフランスでの曉斎への関心の高さを指摘されました。

会場には、ギメ美術館 (Musée Guimet) の学芸員、パルククラブ、フランス日本婦人会の会員らも詰めかけました。また、「曉斎展」が東京・三菱一号館美術館において開催中で、その関係者の姿もありました。



講演するマルケ氏

学術交流活動

吉野家ホールディングスと人材育成や

共同企画の推進などを目的とした

連携協力に関する包括協定を調印

学術交流活動

日時…2015年7月23日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



協定書を交わした水田理事長（右）と河村社長

2015年7月23日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は傘下に牛井チェーン店の吉野家やセルフうどんチェーン店のはなまるなどを持つ株式会社吉野家ホールディングス（河村泰貴代表取締役社長、以下吉野家HD）と、人材育成や共同企画の推進などを目的に連携協力に関する包括協定を調印しました。包括協定調印の主な目的といたしましては、フードサービス業界の企業人による実践的な講義や企業人とのディスカッションによって、フードサービス業界への理解を深め、進路選択の幅を広げることなどが狙いです。今後は、インターンシップの実施、寄付講座の開講、留学生を対象にした就職説明会などを展開していきます。

この日の協定調印に先行する形で、城西国際大学の経営情報学研究科の院生と経営情報学部（学生）を対象にした吉野家HDによる連携講座が5月から7月にかけて行われました。中国やモンゴルなどからの留学生と一部日本人学生に対し、河村社長や吉野家HDグループの社員の方々がフードサービス業界の展望をはじめ、吉野家の人材育成とマネジメント、グローバル展開、ブランドと広告戦略などをテーマに講義。埼玉県の吉野家東京工場見学も行い、学生による意見発表も行われました。今回、一層の連携強化を図るため、包括協定を結ぶことになりました。

東京紀尾井町キャンパスで行われた調印式には水田理事長と柳澤伯夫学長、河村社長らが出席して、協定書を交わしました。水田理

事長は「学生にとって本当に満足度の高い講座で、素晴らしい経験だったと思います。これからも色々な事業を進めていただければ大変うれしく思います」と挨拶。河村社長は「ぜひ学生の皆さまに飲食業の実態、本当の姿を知ってもらい、それが、私どもが目指している飲食業の地位向上につながればと思います」と応えました。

この日の調印式では連携講座の感想も報告

美術活動

水田美術館ギャラリーにて

『東京サバス』出版記念挿絵展を開催

日時…2015年7月14日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

美術活動

2015年7月14日、詩人でもある学校法人城西大学の水田宗子理事長の詩集『東京のサバス』（思潮社）の出版を記念して、詩に寄せた造形作家・絵本作家の森洋子さんの挿絵原画展が東京紀尾井町キャンパス3号棟の水田美術館ギャラリーで始まり、8月2日まで開かれます。

『青い藻の海』の計4冊の挿絵を担当した森さんの全作品、挿絵原画45点など計50点を展示しています。鉛筆の素描と写真コラージュによってさまざまな記憶が折り重なるようなイメージの作品で、子どもの空想、生と死、時間、記憶といった詩と響き合う作品世界を堪能することができます。

『東京のサバス』は、『サンタバーバラの夏休み』『アムステルダム結婚式』に続く3部作の完結編。幾世代にもわたって世界各地で暮らすファミリーの物語をナラティブな手法でダイナミックに描いています。スウェーデン政府が、生命の尊厳を表現する東アジアの詩人に贈る「チカダ賞」の受賞（2013年12月）後、新の詩集刊行となりました。今回の原画展では、この3部作に加え、詩集

され、「将来、母国でビジネスをするときのヒントを数多く得ることができた」（中国人留学生・男子）、「研究対象として興味が出た。修士論文は吉野家をテーマにする予定」（同・女子）などがありました。また、「吉野家で日本式サービスを学びたい」「グローバル社員として活躍したい」などの声もありました。

オープニングセレモニーで、水田理事長は「詩集が出来て、森さんの挿絵が添えられると世界が広がる。それが次作への構想、創作にもつながっていくように思える。本日は、その挿絵の原画を味わってください」と挨拶しました。これに添えて森さんは「詩は言葉によって完成された世界で、そこに絵を付けるのは難問だった。どのような絵になるかは、やってみたいとわからなかったが、最後まで自由に描かせていただいた」と述べました。

●周辺図



アクセス インフォメーション

- 東京メトロ有楽町線 麹町駅 1番出口より徒歩3分
- 東京メトロ半蔵門線・南北線 永田町駅9a番出口より徒歩5分
- 東京メトロ丸ノ内線・銀座線 赤坂見附駅D出口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩10分



そのあと、城西国際大学メディア学部
の学生、大連外大 (Dalian University of
Foreign Languages) や天津外大 (Tianjin
Foreign Studies University) などから留学
本学で学ぶ日中連携大学院の院生が、『青い
藻の海』『東京のサバス』の一部を朗読しま
した。

また、同時期に出版された楽譜集『書かれ
なかったラブレター』の披露も行われ、来場
者は、作曲家吉岡しげ美さんによる演奏、翻
訳者による9か国語の詩の朗読に多言語キャ
ンパスを体感しました。



森さんの挿絵



城西国際大学メディア学部の学生や大連外大・天津外大などからの留学生、日中連携大学院の院生らによる朗読

学校法人 城西大学

城西大学／城西短期大学 **城西国際大学**

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03 (6238) 1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26
TEL 03 (6238) 1300 FAX 03 (6238) 1299